

## 残念無念集

### 1 二人の女が

二人の女がレインコートを着て立つてゐた  
このむし暑いのに 二人は雨がふつてゐるとでも思つてゐるのか  
レインコートをつたつてゐるのは雨ではない  
たくさんなのめくちの子供たちがまるくなりながら落ちてゐる  
それは きつと 彼女たちが同性愛にふけてゐるからだ  
二人の女は池の中の鯉に見入つてゐた  
鯉は背びれをもり立てる  
なめくちを食べようとして 上からのしかかるつもりなのか  
たくさんの鯉が集つて 背びれが水面の上にふくれ上つてゐた  
緋鯉もまじつてゐるので  
黒くなり 赤くなり 水色になつて かき乱れた  
興奮したからであらうか  
汗でびつしよりになつたからであらうか  
顔を見合せた時 二人とも泣いてゐるやうだつた  
一人が自分の傘をいきなり鯉の群れの真中に突き刺した  
もう一人も自分の傘を放り出した  
水面が猛烈に乱れた  
抱き合つた二人の女が飛び込んだ  
なめくちとレインコートが曇り空の下でもにぶく光つてゐた

### 2 夜半の月の

夜半の月の白いことよ  
風に吹かれて散り来る松の葉  
君をこの上傷つけるものはないのだ  
君がこの上傷つかうとも 新しい傷は出来ないのだ  
君を もはや 殺意さへが追ひ打ちにせぬよ  
追ひ打ちは出来ないのだ  
だが 何としてであらう 俺を責めるといふのは  
昼間 人々にかつがれて俺の前に据ゑられた長方形の木箱の中で  
上向いて しづかに 俺の言葉を聞いてゐた君が  
俺に迫るといふのは  
俺は君ではない と 君に言ひ  
君に指し示したと信じるのだが

それを逆手に取って 君は俺ではないと言つてゐる  
今頃になつて俺自身まで君の味方になつて  
自分に立ち向はなければならぬのか  
俺は君の箱の中の血を知つてゐた 土の上にこぼれたことも  
君に松の葉が何の刃に見えようとも  
君を この上 傷つけるものはないはずだ  
今 月の光の中で 庭一面に血がひろがり  
君のからだは 去らず 苦しうにしてゐる  
君は 俺ではない 俺は君ではない

### 3 彼が僕の方を

彼が僕の方を見てゐるのに気づいた時  
僕は しまったなあ と思つた  
僕は彼のつれの女の肉体を庭に放り出してゐた時だつたからだ  
彼女はしづかに洋服をぬぎ 黒いスカートはひだをそろへてたため  
僕の命令通りに歩をはこび  
僕の突き落としにかかつて ゆつくりと倒れた時だつたからだ  
足の裏の桜色も 天を向き 髪の毛が目にかかつて  
大きい青い目は とがめるやうにして僕を見て  
これから笑はうとしてゐる時だつたからだ  
僕も彼の方を見返してやつたら  
彼の方が困つた顔をした  
目をそむけた  
僕の方が困つてゐるわけなのに と つかの間感じたのだが  
彼はつれの女が正当な関係の女でないことに自分で自分に恥ぢたのであらう  
自分のみにくい情事に我ながらたえられなかつたのであらう  
僕の厳然たる態度 僕の怜悯な判断  
女が彼の耳もとに口をよせて何かささやいてゐた  
うつむいてうなづいた男のはりぼての顔  
何事もなかつたやうにして木の中に消えて行く姿  
すぐ行くわけにもいかないので  
僕は石組や木立をゆつたりと眺めた